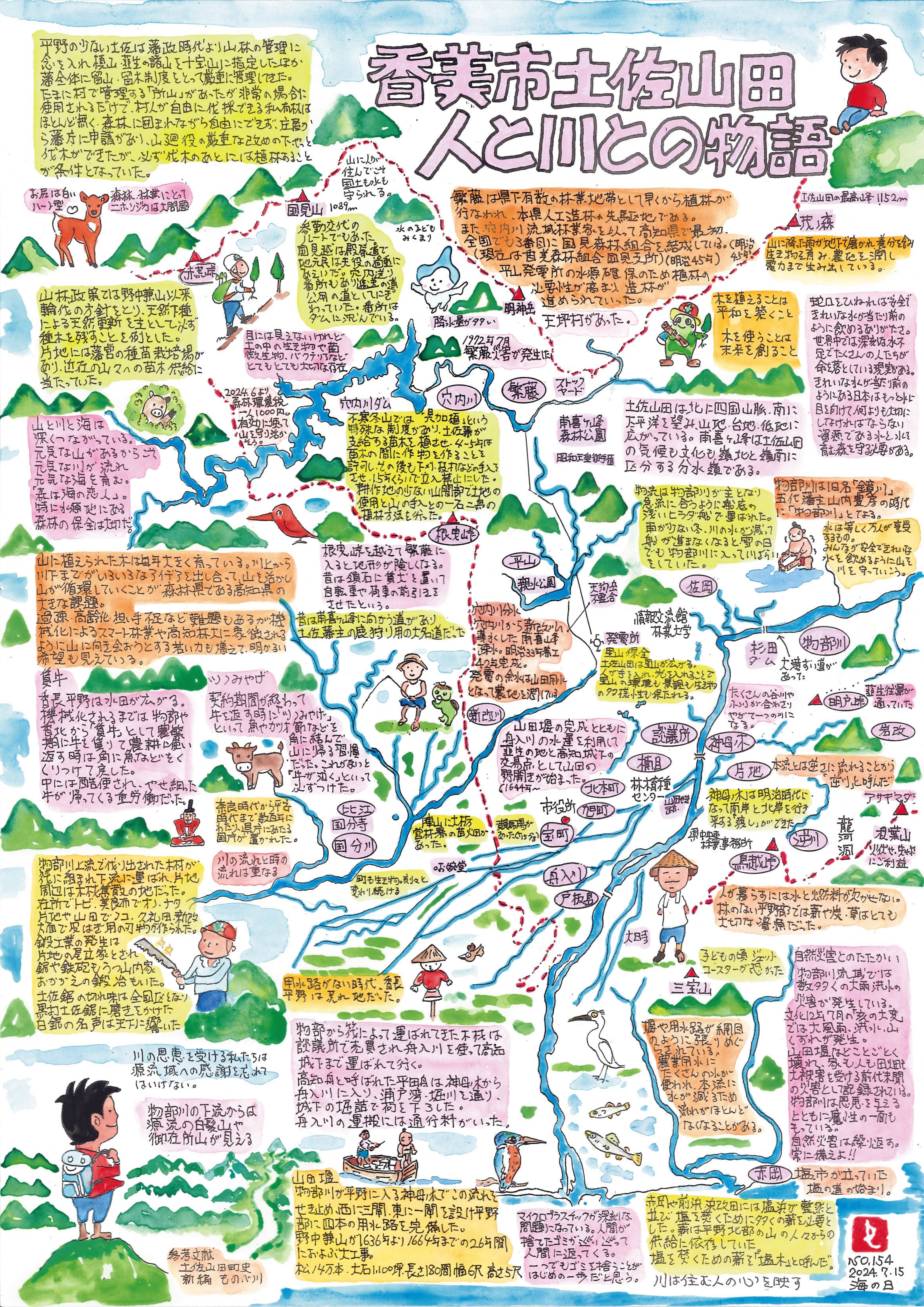
香美市土佐山田
人と川との物語


お尻は白いハート型
森林・林業にとってニホンジカは大問題
国見山 1089m
山に人が住んでこそ国土も水も守られる。
赤荒峠
水のこども みくまり
降水量が多い
明神岳
王坪村があった。
1972年7月繁藤災害が発生した
ストックヤード
繁藤
穴内川
穴内川ダム
土佐山田の最高峰 1152m
茂ノ森
甫喜ヶ峰森林公園
昭和天皇御手植
根曳峠
平山
親水公園
天狗岳不整合
発電所
情報交流館 林業大学
佐岡
杉田ダム
大滝ずい道があった
物部川
明戸峠
韮生往還が通っていた
岩改
談議所
神母ノ木
横目
片地
林木育種センター
山田堰跡
北本町
市役所
旭町
宝町
競馬場があった(T15～S8)
県中央東林業事務所
逆川
龍河洞
アサギマダラ
根葉山
火伏せ・虫よけにご利益
鳥越峠
舟入川
戸板島
大日寺
子どもの頃ジェットコースターが恐かった
三宝山
新改川
比江
国分寺
国分川
お姫堂
川の流れと時の流れは重なる
町も生き物。刻々と変わり続ける
赤岡

平野の少ない土佐は藩政時代より山林の管理に念を入れ槙山・韮生の諸山を十宝山に指定したほか藩全体に留山・留木制度をとって厳重に管理してきた。たまに村で管理する「所山」があったが非常の場合に使用されるだけで、村人が自由に伐採できる私有林はほとんど無く、森林に囲まれながら自由にできず、庄屋から藩方に申請があり、山廻役の厳重な改めの下やっと伐木ができたが、必ず伐木のあとには植林あることが条件となっていた。

参勤交代のルートでもあった国見越は殿様道で地元民は夫役の過重にあえいだ。穴内送り番所もあり進送の道公用の道としてにぎわっていた。番所はダムに沈んでいる。

繁藤は県下有数の林業地帯として早くから植林が行なわれ、本県人工造林の先駆地である。また穴内川流域林業家を以って高知県で最初、全国でも3番目に国見森林組合を結成している。(明治45年)（現在は香美森林組合国見支所）(明治45年)
平山発電所の水源確保のため植林の必要性が高まり、造林が進められていた。

山に降った雨が地下で磨かれ養分を含み生き物を育み、農地を潤し電力まで生み出している。

木を植えることは平和を築くこと

木を使うことは未来を創ること

蛇口をひねれば安全できれいな水が当たり前のように飲めるありがたさ。世界中では深刻な水不足でたくさんの人たちが命を落としている現実がある。きれいな水が当たり前のようにある日本はもっと水に目を向けて何よりも大切にしなければならない資源である水と、水を育む森を守る必要がある。

山林政策では野中兼山以来輪伐の方針をとり、天然下種による天然更新を主として必ず種木を残すことを例とした。片地には藩営の種苗栽培場があり、近在の山々への苗木供給に当たっていた。

目には見えないけれど土の中の生き物や菌微生物、バクテリアなどとてもとても大切な存在

2024.6より森林環境税一人1000円。有効に使って山を守り活かそう。

山と川と海は深くつながっている。元気な山があるからこそ元気な川が流れ元気な海を育む。「森は海の恋人」。特に水源地にある森林の保全は大切だ。

不寒冬山では「見加植」という特殊な制度があり、土佐藩が支給する苗木を植えさせ、4～5年は苗木の間に作物を作ることを許可し、その後も下刈・枝打などの手入をさせ、15年くらいで立入禁止にした。耕作地の少ない山間部で土地の使用と山の手入との一石二鳥の植林方法を行った。

土佐山田は北に四国山脈、南に太平洋を望み、山地・台地・低地に広がっている。甫喜ヶ峰は土佐山田の気候も文化も嶺北と嶺南に区分する分水嶺である。

物流は物部川が主となり急流に合うように船底の浅いヒラダ船で運ばれた。雨が少ない冬、川の水が減って船が進まなくなると雪の日でも物部川に入って川ざらいをしていた。

物部川は旧名「鏡川」五代藩主山内豊房の時代に「物部川」となる。

水は等しく万人が享受するもの。みんなが安全できれいな水を飲めるように山を川を守っていこう。

根曳峠を越えて繁藤に入ると地形が険しくなる。昔は領石に賃夫を置いて自転車や荷車の前引きをさせたという。

山に植えられた木は毎年大きく育っている。川上から川下までがいろいろなアイデアを出し合って、山を活かし山が循環していくことが森林県である高知県の大きな課題。過疎・高齢化・担い手不足など難題もあるが機械化によるスマート林業や高知林大に象徴されるように山に向き合おうとする若い力も増えて明るい希望も見えている。

昔は甫喜ヶ峰に向かう道があり土佐藩主の鹿狩り用の大名道だった

穴内川分水
穴内川から新改川へ導水した甫喜山峰疎水。明治33年着工42年完成。
発電の余水は山田用水となって農地を潤している

里山保全
土佐山田は里山が広がる。人が手を入れ、光を入れることで里山の環境も景観も生き物の多様性も保たれる。

たくさんの谷川や小川が合わさりやがて一つの川になる。

貸牛
香長平野は水田が広がる。機械化されるまでは物部や香北から「貸牛」として農繁期に牛を借りて農耕に使い返す時は角に魚などをくくりつけて戻した。中には酷使され、やせ細った牛が帰ってくる重労働だった。

ツノみやげ
契約期間が終わって牛を返す時に「ツノみやげ」といって魚やカツオ節などを角に結んで山に帰る習慣だった。これがないと「牛が泣く」といって必ずつけた。

山田堰の完成とともに舟入川の水運を利用して韮生の地と高知城下の交易点として山田の町開きが始まった。(1644年～

本流とは逆さに流れることから「逆川」と呼んだ

神母ノ木は明治時代になって南岸と北岸を行き来する「渡し」ができた

奈良時代から平安時代まで数百年にわたり県庁にあたる国庁が置かれた。

陣山に大林区営林署の苗畑があった。

人が暮らすには水と燃料が欠かせない。林のない平野部では薪や炭・草はとても大切な資源だった。

物部川上流で伐り出された木材が筏に組まれ下流に運ばれ、片地周辺は木材集散の地だった。在所でトビ、美良布でオノ・ナタ、片地や山田でノコ、久礼田・新改・大画で皮はぎ用の刃物が作られた。鍛工業の発生は片地の尾立家とされ鋸や鉄砲もうつ山内家おかかえの鍛冶もいた。土佐鋸の切れ味は全国区となり黒打土佐鋸に磨きをかけた白鋸の名声は天下に響いた

用水路がない時代、香長平野は荒れ地だった。

自然災害とのたたかい

物部川流域では数多くの大雨洪水の災害が発生している。文化12年7月の「亥の大変」では大風雨、洪水、山くずれが発生。山田堰などことごとく壊れ、家も人も田畑も大被害を受ける前代未聞の災害として記録されている。物部川は恩恵を与えるとともに魔性の一面ももっている。自然災害は繰り返す。常に備えよ!!

堰や用水路が網目のように張りめぐらされている。農業用水にたくさんの水が使われ、本流に水が減るため流れがほとんどなくなることがある。

物部から筏によって運ばれてきた木材は談議所で売買され舟入川を使って高知城下まで運ばれて行く。
高知舟と呼ばれた平田舟は神母ノ木から舟入川に入り、浦戸湾・堀川を通り、城下の堀詰で荷を下ろした。
舟入川の運搬には通行料がいった。

川の恩恵を受ける私たちは源流域への感謝を忘れてはいけない。

物部川の下流からは源流の白髪山や御在所山が見える

山田堰
物部川が平野に入る神母ノ木でこの流れをせき止め西に三閘、東に一閘を設け平野部に四本の用水路を完備した。
野中兼山が1636年より1664年までの26年間におよぶ大工事。
松14万本・大石1,100坪・長さ180間幅6尺高さ5尺

塩市が立っていた
塩の道の始まり。

赤岡や前浜・浜改田には塩浜が整然と並び塩を焚くために多くの薪を必要とした。薪は平野北部の山の人々からの供給に依存していた。
塩を焚くための薪を「塩木」と呼んだ。

マイクロプラスチックが深刻な問題になっている。人間が捨てたゴミが巡り巡って人間に返ってくる。
一つでもゴミを拾うことがはじめの一歩だと思う。

参考文献
土佐山田町史
新編 ものべ川

川は住む人の心を映す

NO.154
2024.7.15
海の日